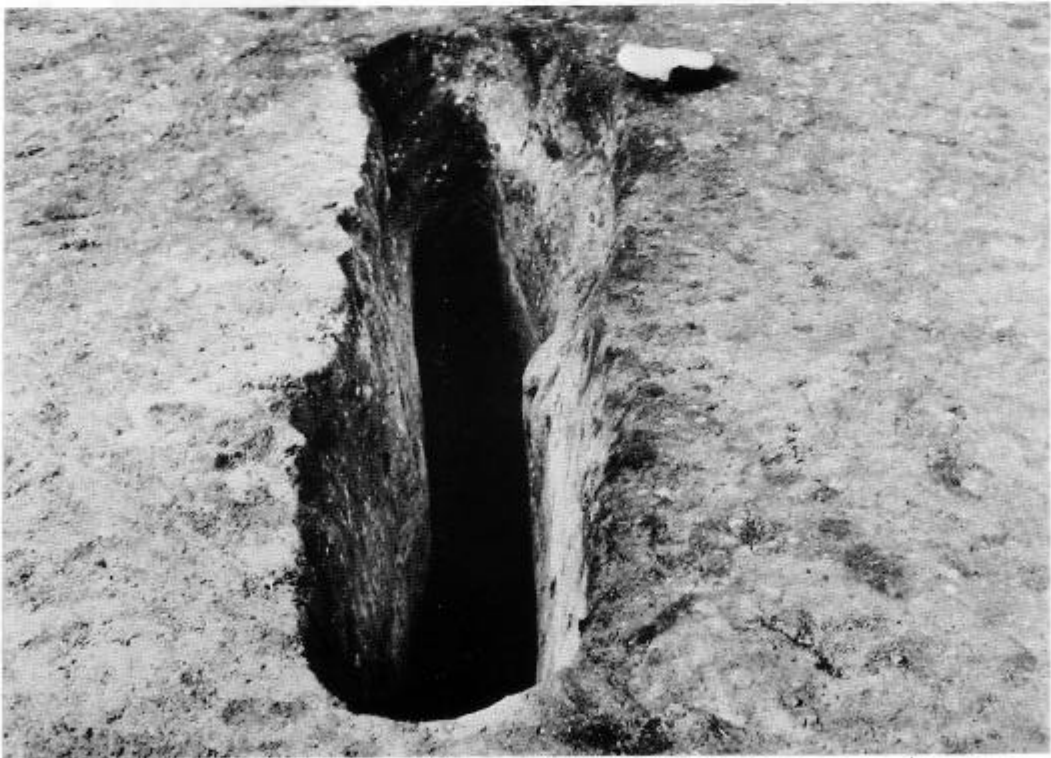




1



2

図版11 1 SK(F)03 フラスコ状ピット (北▶南) 2 SK(T)01 (南▶北)



1



2



3



4



5



6



7



8



10



11

図版12 S101 竪穴住居跡出土坏形土師器(1~11)



12



13



14



15



16



17



18



19



20



21

图版13 S101 竖穴住居跡出土环形土師器 (12~21)



22



23



24



25



26



27



28



30



31



32

図版14 S101 竪穴住居跡出土环形土師器 (22~32)



33



34



35



36



38



39



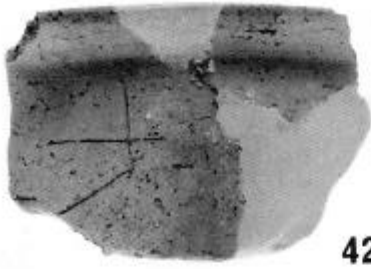
40



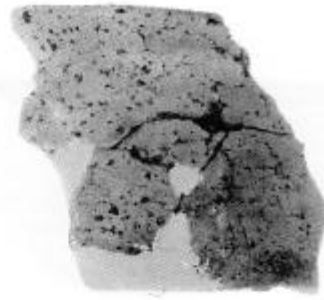
41

図版15 S101 竪穴住居跡出土坏形土師器 (33~38)・坏形須恵器(39)・
甕形土師器 (40・41)

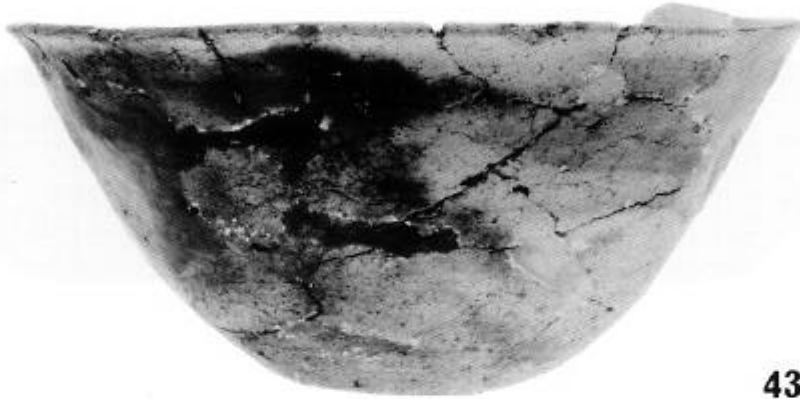
下乳牛遺跡



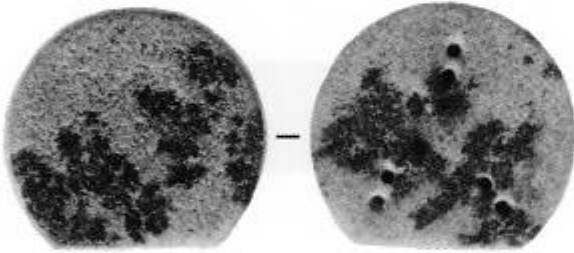
42



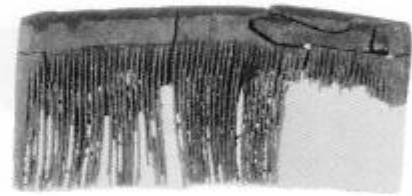
44



43



45



46

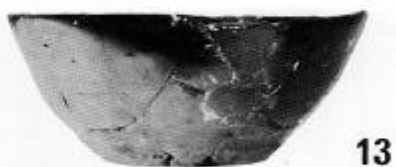


47

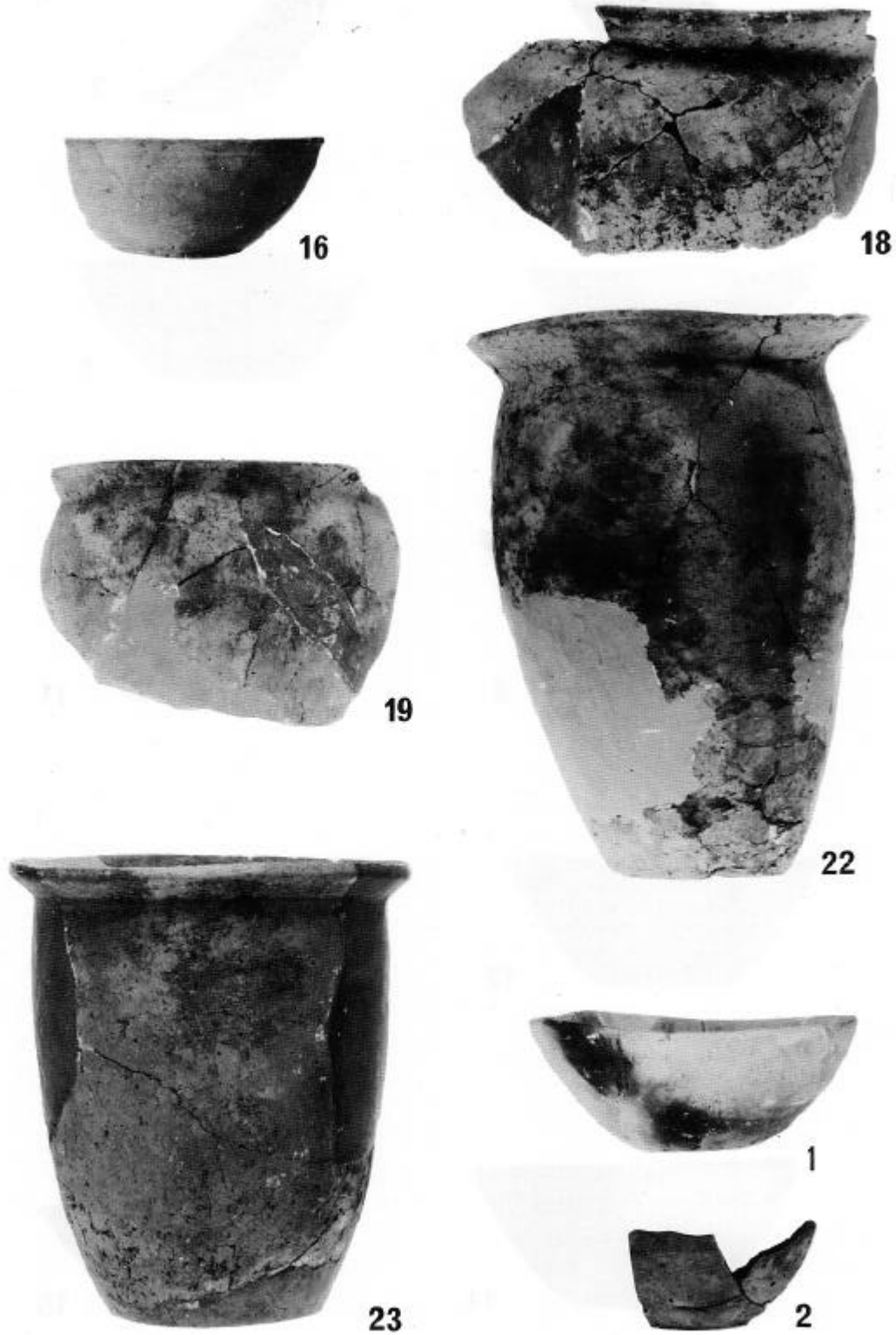


48

図版16 S101 豎穴住居跡出土壺形土師器 (42・44)・鍋形土師器 (43)・石帯 (45)・櫛 (46)・皿形木製品 (47・48)



図版17 S102 竪穴住居跡出土环形土師器 (2-15)



図版18 S102 竪穴住居跡出土坏形土師器 (16)・甕形土師器 (18~23)・
遺構外出土坏形土師器 (1・2)

西 町 I 遺 跡

遺 跡 番 号	No.27
所 在 地	鹿角市花輪字西町 151 番地の 1 他
調 査 期 間	昭和55年10月17日～11月11日
発掘調査予定面積	6,236m ²
発掘調査面積	1,875m ²

1 遺跡の概観

西町 I 遺跡は鹿角市花輪字西町 151 番地の 1 他にあり、国鉄花輪線柴平駅より南東へ約 2 km の地点に所在する。西町と乳牛両集落の間には、奥羽山脈から連続する丘陵とは離れて、独立する小丘陵が存在するが、この丘陵は南北 950 m、東西 350 m、海拔 164.5 m ほどの小山で、この中央部を切断する形で自動車道が通ることになった。

遺跡地はこの丘陵上平坦部にあり、その南北よりも丘陵の幅がくびれて狭くなり、かつ海拔高度も若干低くなっている。東南側斜面裾部には下乳牛 (No.26) 遺跡・北西側斜面裾部には西町 II 遺跡が存在する。乳牛平 (No.25) 遺跡も指呼の間にあり、北西方向の眺望はすこぶる良い。

2 調査の方法

東北縦貫自動車道建設予定地道路中心杭 S T A 163+20 と S T A 163+60 を結ぶ直線をグリッドの基準線とし、これに直交するラインを設定して 5 m × 5 m のグリッドを組んだ。グリッドの呼称は北東～南西軸をアラビア数字、北西～南東軸をアルファベットとし、両者を組み合わせて呼んだ。K ラインより北西 1 m のラインに幅 1 m のトレンチを設け、遺跡中央部の土層を観察した。

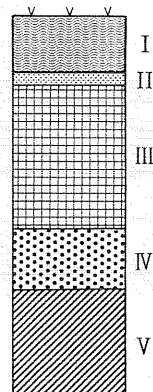
3 調査の経過

調査は 55 年 10 月 17 日から、西町 II (No.28) 遺跡と並行しながら開始した。表土を剥ぐとすぐ大湯浮石層が現われ、この面での遺構確認に努めたが遺構は検出されず、さらに III、IV 層も掘り下げ、V 層地山面に倒木痕を検出ただけで、11 月 11 日調査を終了した。

4 遺跡の層位

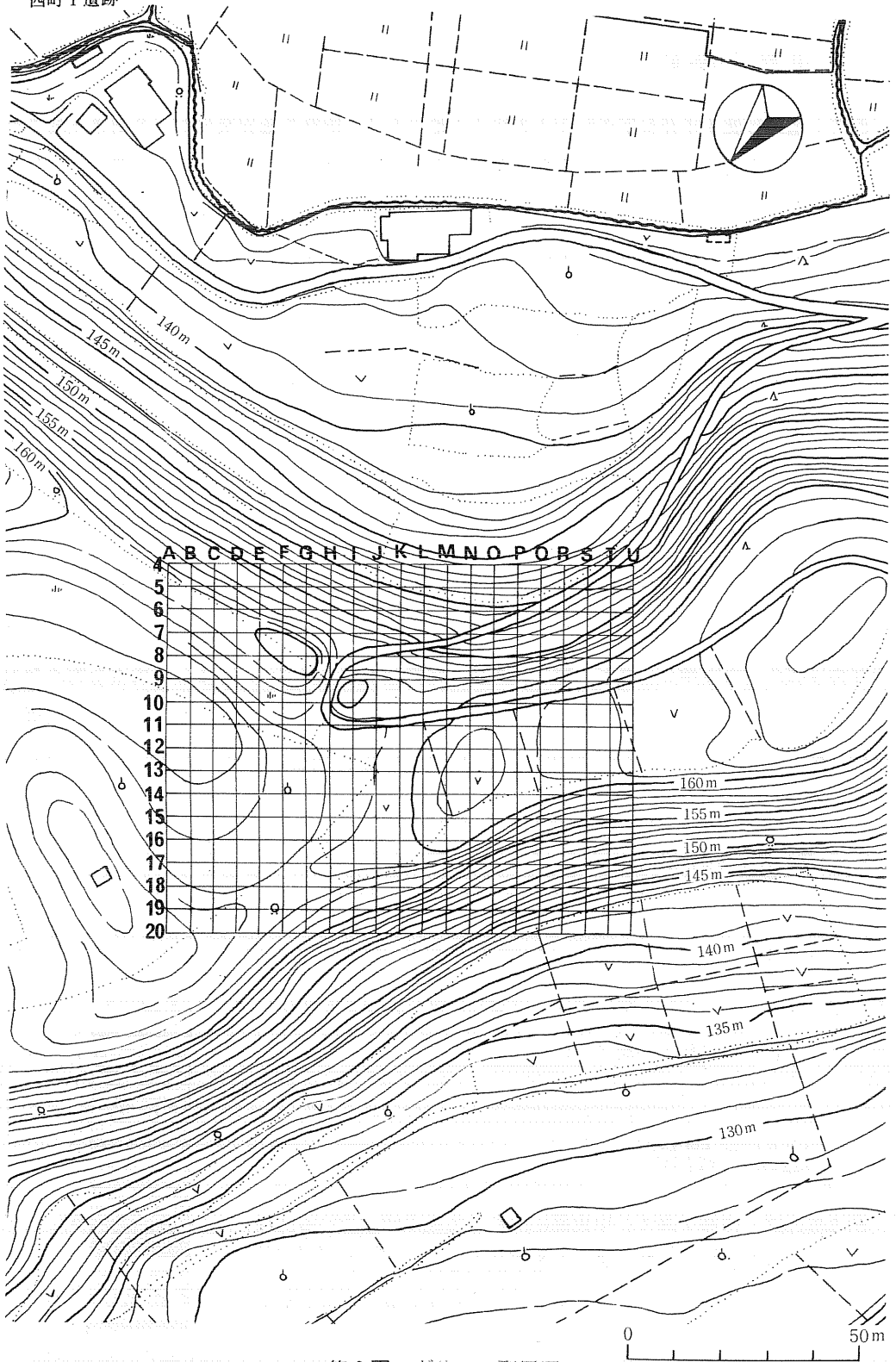
調査地点は、南側が高く、中央部に向かって幾分凹んでいる。(従って中央部ほど浮石の堆積が多い。) 基本的土層は次のとおりである。

I 層：(10 Y R 8/1) 黒色。表土で植物根を多く含み、浮石を若干混入する。10~45cm の厚さで堆積している。



第 1 図 土層柱状図

西町 I 遺跡



第 2 図 グリッド配置図

II層：(10Y R 5/6) 黄褐色。径1～0.5mmの浮石層である。主として地山が凹地になる地点に多く5～10cmの厚さに堆積している。

III層：(10Y R 1・7/1) 黒色。厚いところで85cm堆積している。層下部ほど軟質で、ごく少量の黄褐色土ブロックの混入が見られる。遺物包含層で、弥生土器はこの層上部のII層直下から出土している。下部から第4図2の石器が出土した。

IV層：(10Y R 2/2) 黒褐色土。III層とV層の漸移層である。

V層：(10Y R 3/4) 暗褐色土。地山である。

5 遺構と遺物

(1) 遺 構

遺構は検出されなかった。

(2) 遺 物

① 土 器 (第3図、図版2)

第1類(1・2) いずれもRL斜縄文の施されたものである。

第2類(3～6) 沈線文の施されたものである。3・4は外反する口縁部で、3には横位平行線、4には二重の菱形文が描かれている。5、口縁部端が屈折して外傾し、内面にも一条の沈線が施されている。外面無文部は、ヘラミガキがなされている。6、胴上半部が内傾する壺であろう。頸部屈曲部に細い隆帯と沈線が見られる。

第3類(7～11) 撚糸の施文されたものである。7～9は内傾する胴部上半、10は底部付近である。11も底部付近であるが、不規則な横位S字状の撚糸文である。

第4類(12～15) 無文の土器である。12～14は内傾するもの、15は底部である。

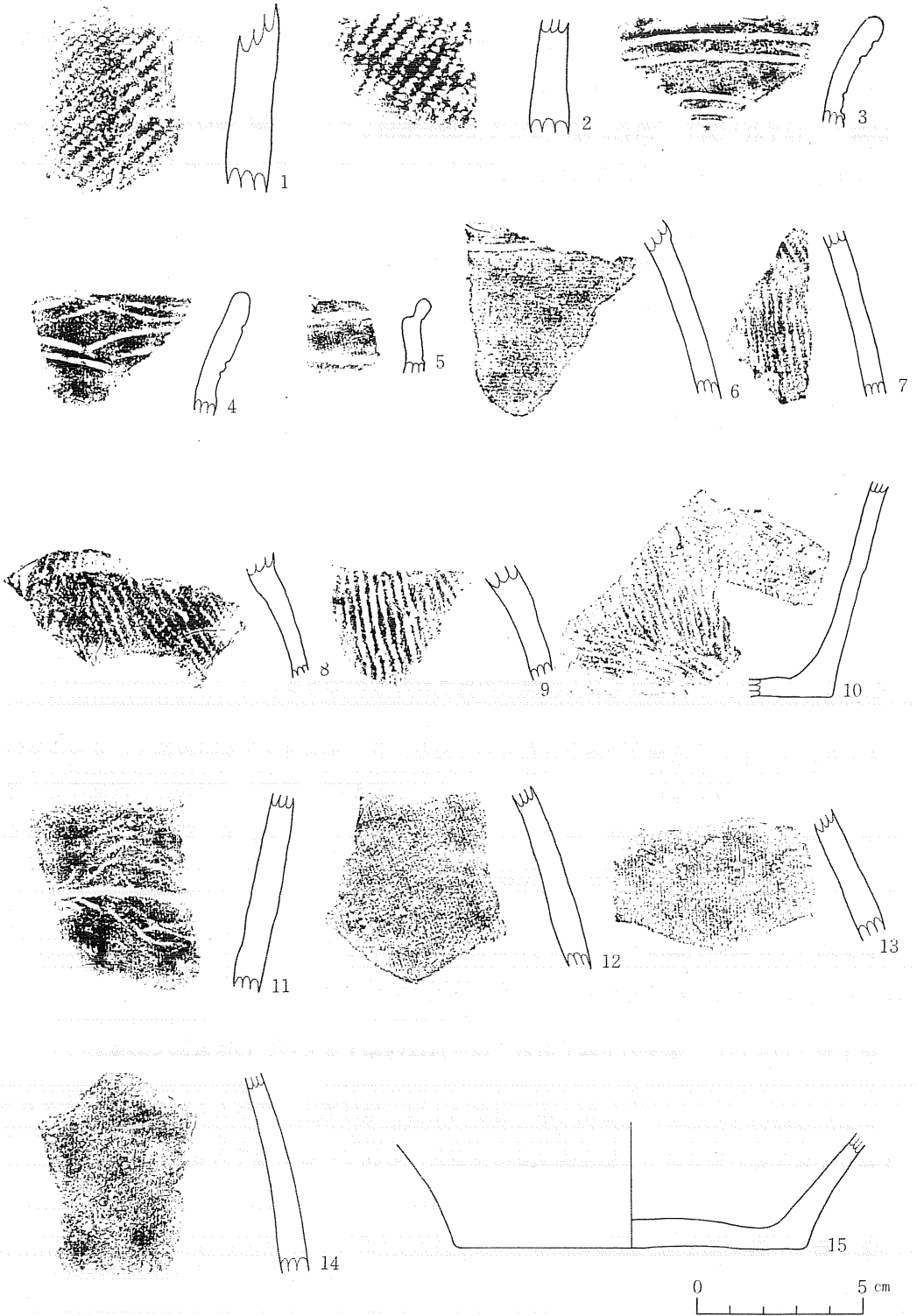
以上の土器のうち、1・2は縄文中～後期の土器、他は弥生土器である。撚糸文の施された土器を小坂X式の型式名で、弥生終末期に位置付けられている土器である。

② 石 器 (第4図 図版2)

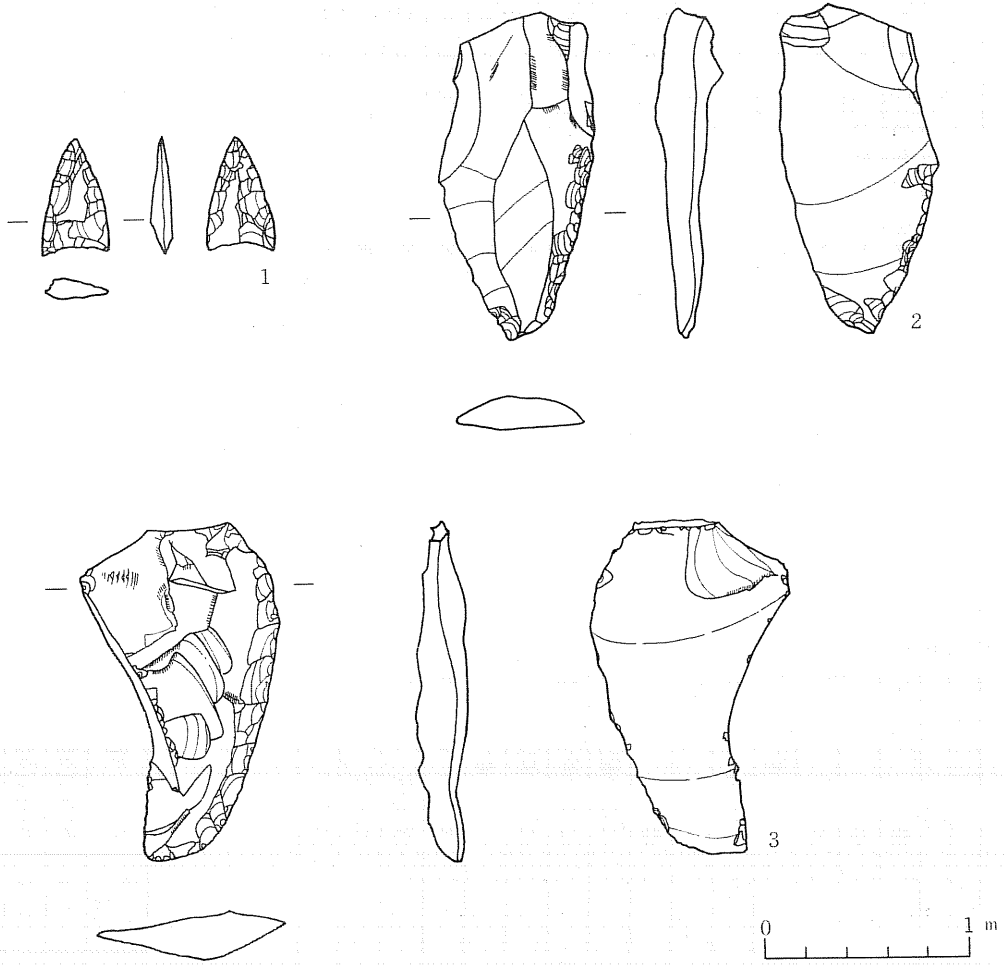
石器は3点出土した。

1は無茎石鏃、2・3は一側辺のみに調整剥離の見られるものである。

西町 I 遺跡



第3図 出土遺物 (1)



第4図 出土遺物(2)

第1表 遺物観察表

〔土 器〕

挿 番	図 号	図 番	版 号	出 地	土 点	外 面		内 面		胎 土	焼 成
						文 様	色 調	色 調	面 調		
3—1		2—1				R L繩文	橙 2.5Y R ⅞	橙 7.5Y R ⅞		細砂少し含む	良 好
2		2				R L繩文	橙 5Y R ⅞	橙 5Y R ⅞		細砂少し含む	良 好
3		3	17—D			沈線文	浅黄橙 7.5Y R ¾	にぶい橙 7.5Y R ¾		細かい	良 好
4		4	9—C			沈線文	にぶい橙 10Y R ⅔	にぶい橙 5Y R ¾		細かい	良 好
5		5	17—D			沈線文	明赤褐 5Y R ⅞	橙 5Y R ⅞		細かい	良 好
6		6	17—D			沈線文	浅黄橙 7.5Y R ⅞	浅黄橙 7.5Y R ¾		細かい	良 好
7		7				R撚糸文	橙 2.5Y R ⅞	にぶい橙 5Y R ¾		細かい	良 好
8		8	13—D			R撚糸文	にぶい橙 7.5Y R ¾	にぶい橙 5Y R ¾		少し荒い	良 好
9		9	13—D			R撚糸文	にぶい橙 7.5Y ¾	浅黄橙 7.5Y R ¾		少し荒い	良 好
10		10	13—D			R撚糸文	にぶい橙 5Y R ¾	黒 10Y R ¾		細かい	良 好
11		11				R撚糸文	にぶい橙 5Y R ¾	にぶい黄橙 10Y R ¾		細かい	良 好
12		12	17—D			無文	浅黄橙 10Y R ¾	浅黄橙 7.5Y R ¾		細かい	良 好
13		13	17—D			無文	浅黄橙 7.5Y R ¾	浅黄橙 7.5Y R ¾		細かい	良 好
14		14	17—D			無文	浅黄橙 7.5Y R ¾	浅黄橙 7.5Y R ¾		細かい	良 好
15		15	17—D			無文	浅黄橙 7.5Y R ⅞	浅黄橙 7.5Y R ¾		細かい	良 好

西町1遺跡

〔石 器〕

挿 番	図 号	図 番	版 号	出 地	土 点	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量 (g)	石 質
4—1			2-15			2.7	1.6	0.5	1.6	硬質頁岩
2			16			8.2	3.9	1.3	35.2	硬質頁岩
3			17			8.1	3.6	1.5	38.3	硬質頁岩

6 ま と め

西町Ⅰ遺跡の発掘調査では、遺構は検出されなかったが、少量の遺物が出土し、縄文、弥生時代に、遺跡地の台地上が何らかの形で利用されていたことがうかがわれる。

発掘調査参加者（西町Ⅰ遺跡）

浅石 清一、浅石林一郎、川又 康彦、木村 留吉、木村 善男、佐藤 由蔵、関本 芳雄、
田中 敬二、田中権四郎、奈良 一彦、奈良正次郎、畠山 市助、浅石 イソ、浅石 ヒサ、
浅石 ミヨ、浅石 ヨエ、阿部 妙子、安保 カヨ、安保ハルエ、安保ユキ子、大森 栄子、
金沢実津子、川又 スエ、川又 ソヨ、川又 千代、久慈 チヤ、児玉ハツエ、斉藤 サキ、
斉藤 久子、佐藤 トシ、佐藤フミエ、高橋 チカ、高橋 ミワ、豊田 コヨ、豊田 チキ、
苗代沢良子、根本 キワ、根本 シエ、橋場 トシ、古家カツ子、古家 一子、米田 ノリ、
宮沢 カヨ、柳沢 光子、山口チヨ子

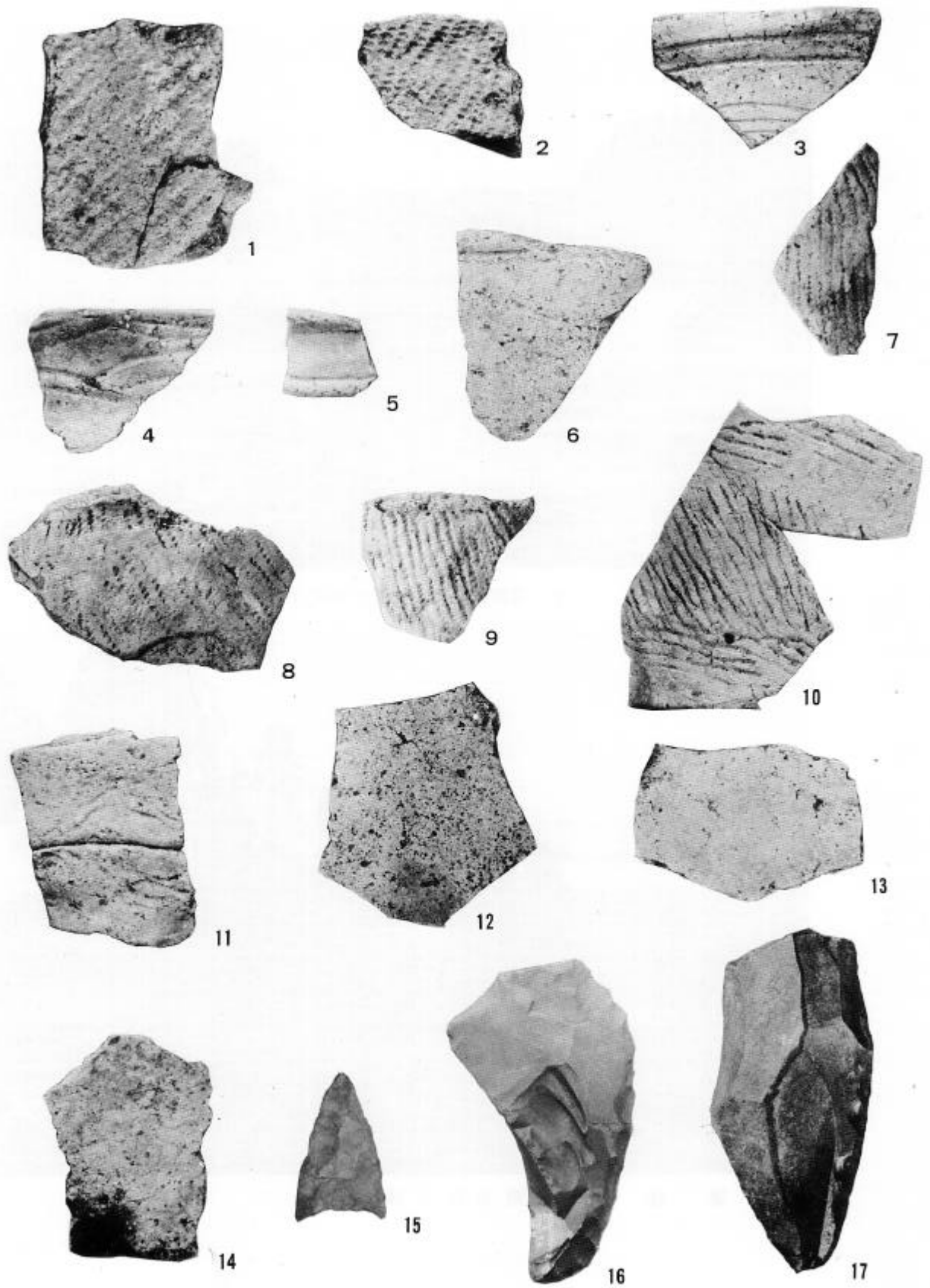


1 遺跡遠景（台地上が西町 I 遺跡）



図版1 遺跡

2 調査終了後



図版2 遺物 西町I遺跡出土遺物

西 町 II 遺 跡

遺 跡 番 号	No.28
所 在 地	鹿角市花輪字西町47番地の5 他
調 査 期 間	昭和55年 9 月26日～11月12日
発掘調査予定面積	2,549m ²
発掘調査面積	2,925m ²

1 遺跡の概観

西町Ⅱ遺跡は鹿角市花輪宇西町47番地の5他にあり、国鉄花輪線柴平駅より南東へ2kmの地点に所在する。西町と乳牛両集落の間には、奥羽山脈から連続する丘陵とは離れて独立する小丘陵が存在する。この丘陵は南北950m、東西350m、海拔164.5mほどの小山で、丘陵東側を花輪から大湯方面へ通じる県道が通っている。

遺跡はこの小丘陵の西斜面から花輪盆地の水田面へと連なる緩斜面の、海拔126m～133mの間にあり、北西方向には毛馬内方面の山々を遠望する。現状は畑地で一部に豚舎が建てられていた。

2 調査の方法

東北縦貫自動車道建設予定地道路中心杭S T A 164+20とS T A 165+40を結ぶ直線をグリッドの基準線とし、これに直交するラインを設定して5m×5mのグリッドを組んだ。グリッドの呼称は北西～南東軸にアルファベット、北東～南西軸にアラビア数字を付し、両者の組み合わせで呼んだ。遺跡中央部に幅1mのトレンチを設け、土層を観察した。

3 調査の経過

調査は55年9月26日、遺跡北東側の斜面上部の表土除去から開始した。これに先立ち、土層断面図作成箇所を残して表土を重機により除去しておいた。10月3日には土壌を検出し、16日にはS I 001・002の住居跡を検出した。17日からは西町Ⅰ遺跡(No.27)の調査を並行して進行させた。18日から土壌の実測と写真撮影を開始し、11月12日にはコンターをとって調査を終了した。

4 遺跡の層位

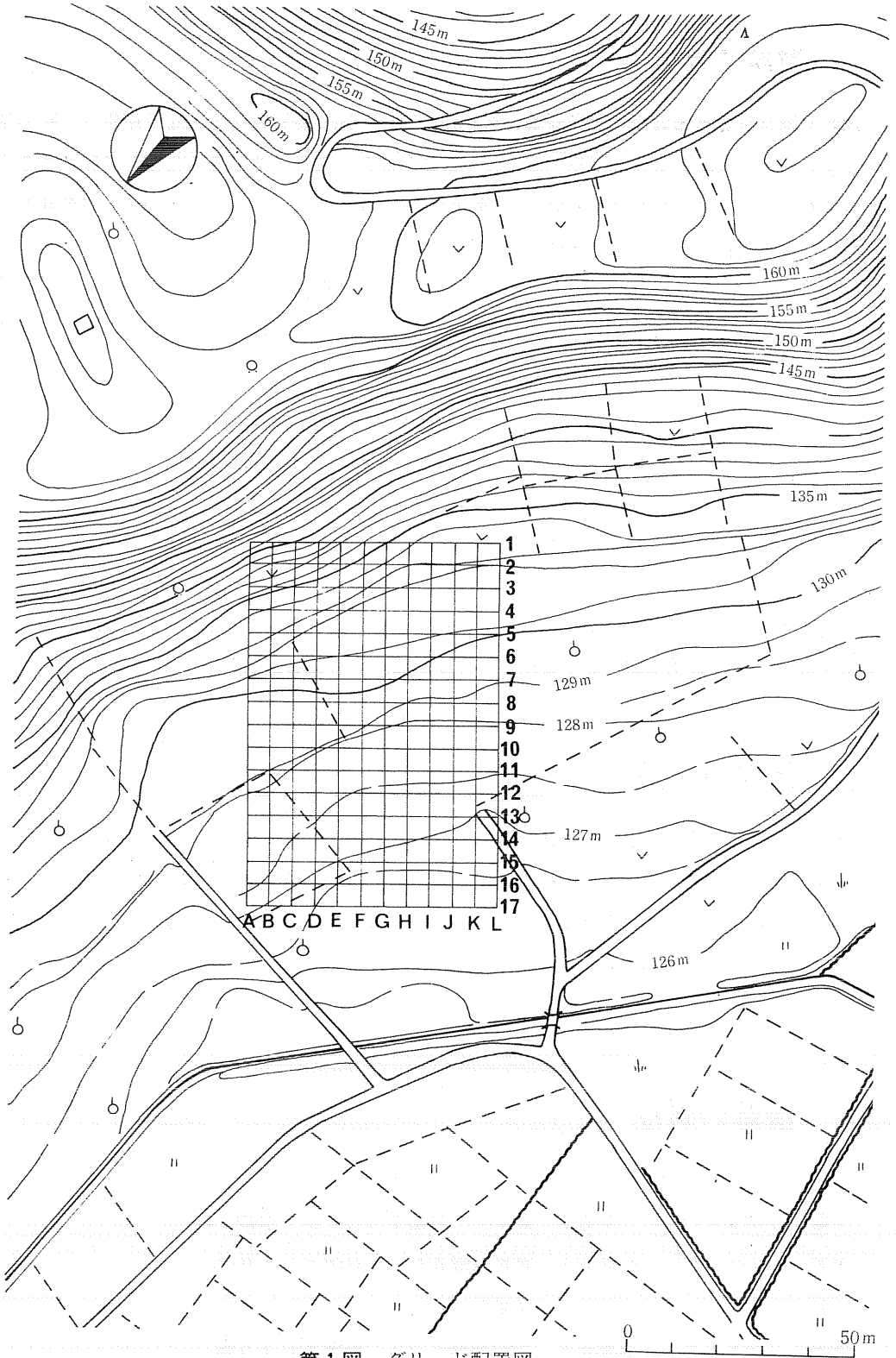
本遺跡の土層は、以下のとおりである。Ⅱ層上面が遺構確認面である。

Ⅰ層：(10Y R¹・㉔) 黒色土、表土で、斜面下方ほど厚く堆積する。

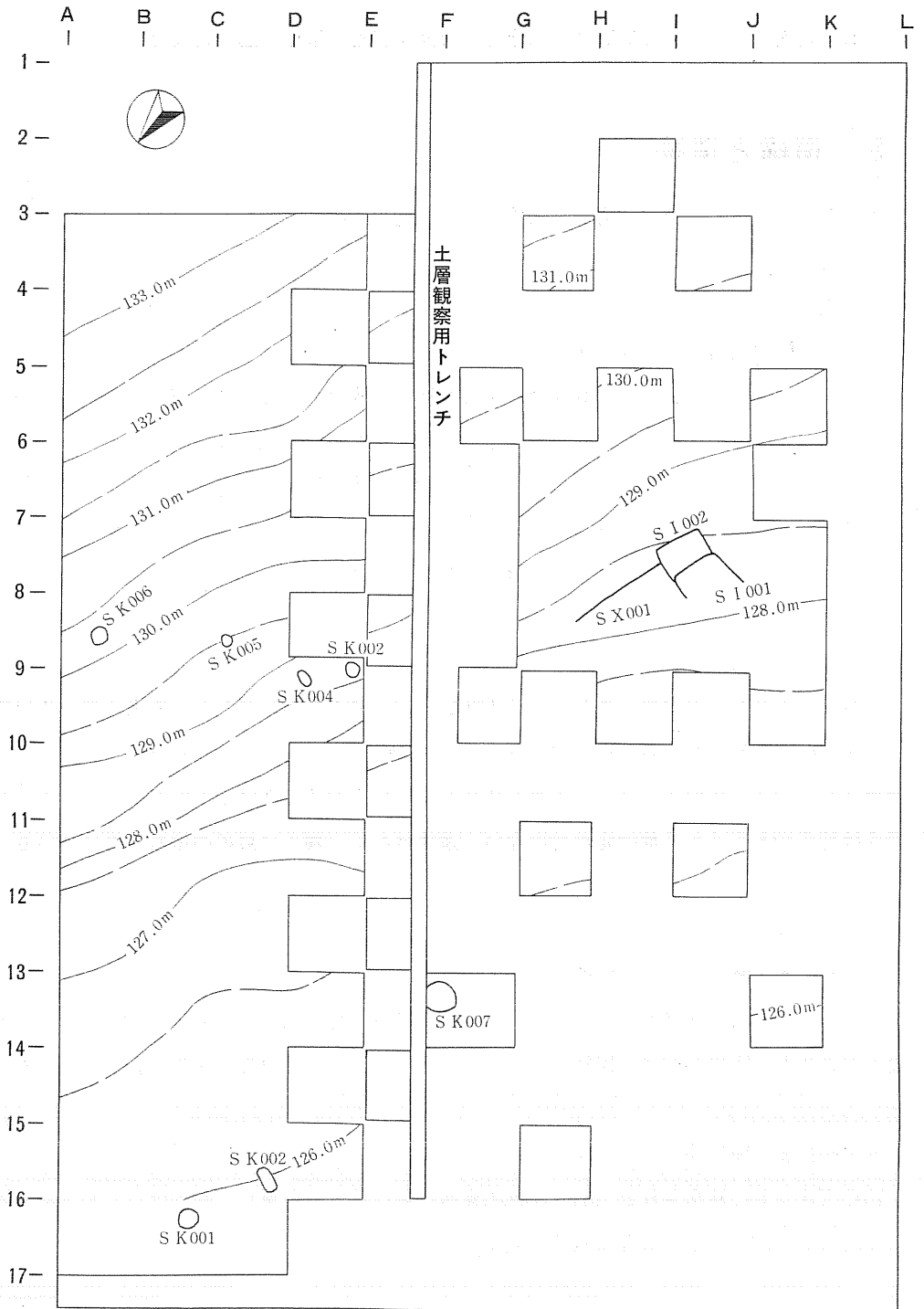
Ⅱ層：(10Y R ㉔) 暗褐色土、黄褐色軽石混入、粘質でしまり強。

Ⅲ層：(10Y R¹・㉔) 黒色土、黄褐色軽石混入、粘質でしまり強。

Ⅳ層：(10Y R ㉔) 黒褐色土、黄褐色軽石混入、粘質でしまり強。



第1図 グリッド配置図



第2図 遺構配置図

なお、斜面下方のⅠ・Ⅱ層間に、部分的に大湯浮石層の堆積が認められた。

5 遺構と遺物

検出された遺構は、竪穴遺構2・土壙7・その他の遺構1である。

(1) 遺構

① 竪穴遺構

S I 001 竪穴遺構 (第3図、図版2)

7 I グリッドに検出された。S X 001 を掘り込んで構築されている。方形を呈するものであろうが、西側に低い斜面のため、西壁は全く検出されない。北壁は15~22cm、南壁は29~40cm、東壁は5~14cmの高さで垂直に近い立ち上りを示す。床面はさほど堅くはなく、炉、炭化物は検出されない。小さめのピット (P 6~P 12) が見られるが、P 6・P 8・P 10・P 11・P 13などは柱穴であろうと思われる。遺物は出土しなかった。

S I 002 竪穴遺構 (第3図、図版3)

7 H・7 I グリッドに検出された。S I 001・S X 001と重複しており、両者の覆土上に明黄褐色土で貼床を施している。貼床の範囲は220×150cm、厚さ5cmほどである。北壁は15~20cm、南壁は20~30cm、東壁は30cm前後の高さで垂直に立ち上がるが西壁は不明である。P 1~P 3・P 5は柱穴であろうが、他は定かではない。遺物はなく、覆土に最近の攪乱を受けている。

② 土壙

S K 001 土壙 (第4図、図版3)

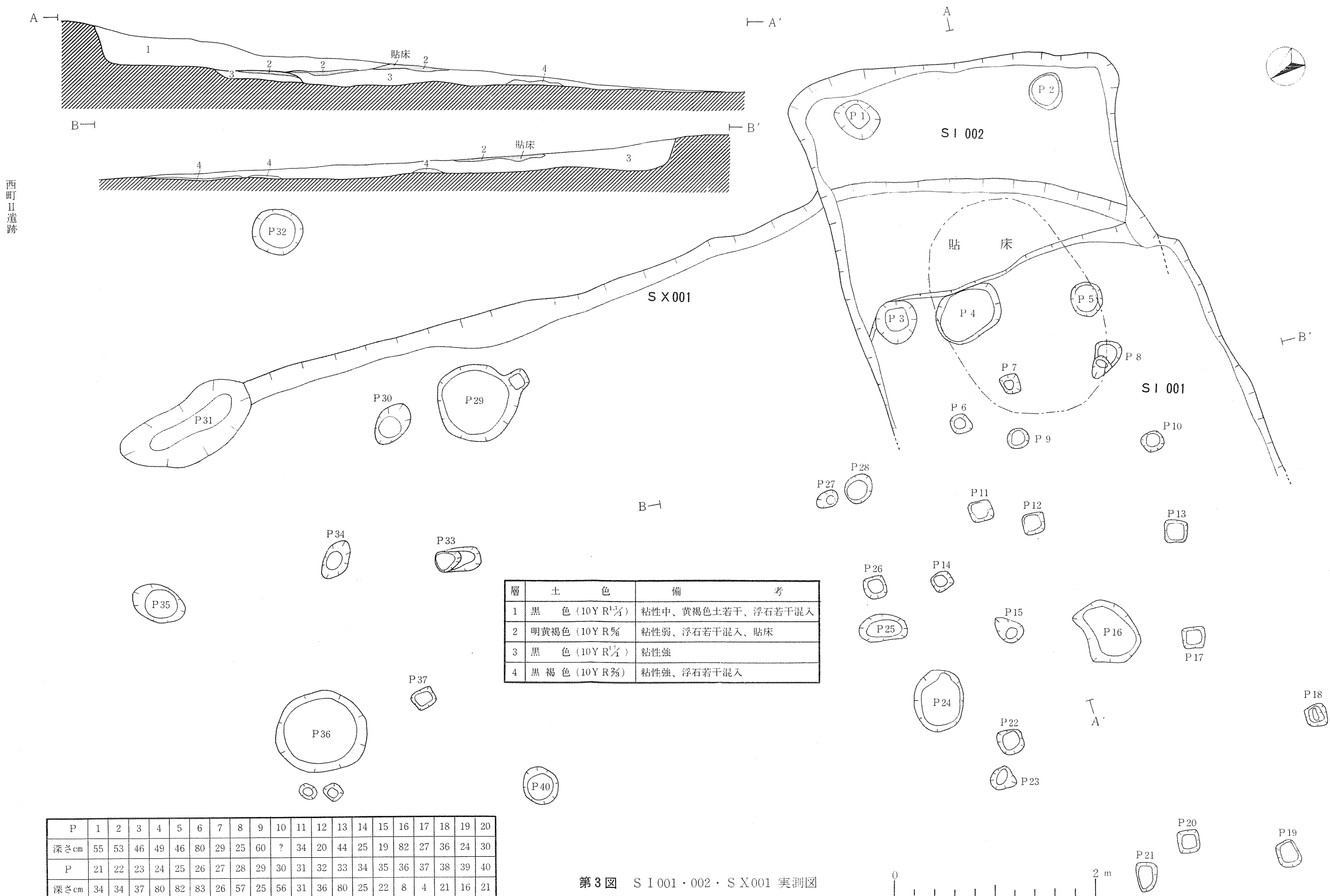
16 B グリッドに検出された。口径137cm、深さ175cm、底径110cmを測る。底面はほぼ平坦で、覆土中に焼土、灰の層が薄く堆積している。井戸跡かと考えられる。遺物は出土していない。

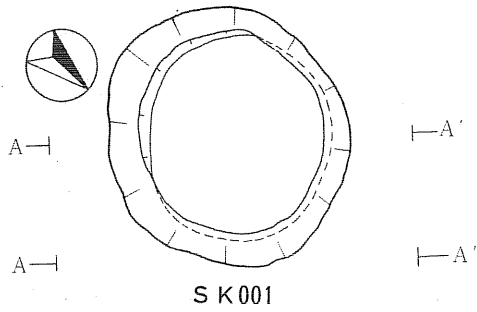
S K 002 土壙 (第4図、図版3)

15 C グリッドに検出された。180×70cmの東西に長い長方形を呈し、深さは12~20cmを測る。底面はほぼ平坦である。遺物は検出されない。

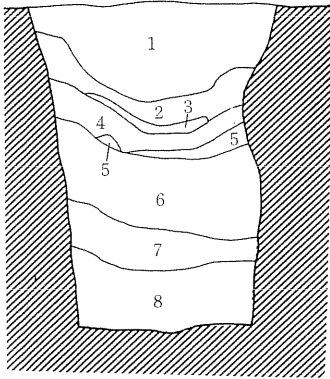
S K 003 土壙 (第4図、図版4)

9 E 杭付近に検出された。円形で径116cm、深さは20~45cmを測る。底面はほぼ平坦である。遺物は検出されない。

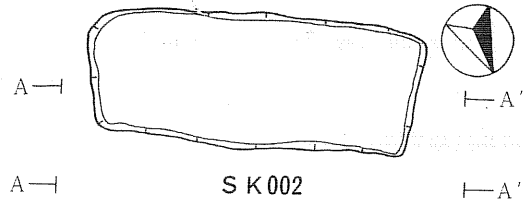




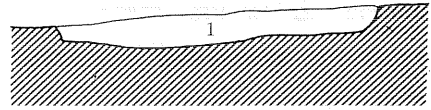
S K 001



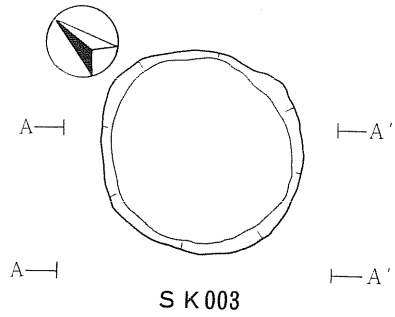
層	土色	備考
1	黒色 (10Y R ¹ / ₂)	粘性強、炭化物微量、白色浮石少量混入
2	黒色 (10Y R ² / ₄)	粘性強、炭化物微量、白色浮石少量混入
3	暗褐色 (10Y R ⁵ / ₄)	焼土、灰を混入
4	黒色 (10Y R ² / ₄)	粘性強、明黄色、浮石多量に混入
5	褐色 (10Y R ⁴ / ₄)	
6	黒色 (10Y R ¹ / ₂)	粘性強、白色、明黄褐色浮石混入
7	黒色 (10Y R ² / ₄)	粘性強、白色、明黄褐色浮石混入
8	黒色 (10Y R ¹ / ₂)	粘性強



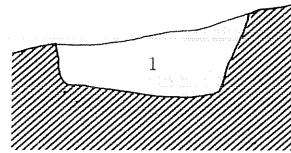
S K 002



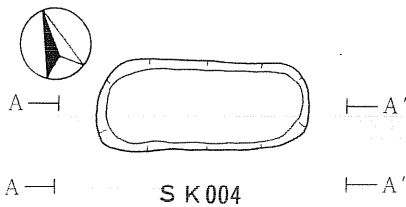
層	土色	備考
1	黒色 (10Y R ¹ / ₂)	粘性強、白灰色、明黄褐色浮石混入



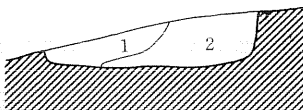
S K 003



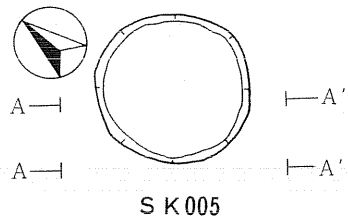
層	土色	備考
1	黒色 (10Y R ¹ / ₂)	粘性強、明黄褐色地山土混入



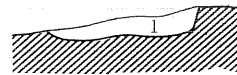
S K 004



層	土色	備考
1	黒褐色 (10Y R ⁵ / ₄)	粘性強、暗褐色土を含む
2	黒色 (10Y R ² / ₄)	粘性強、浮石少量混入



S K 005



層	土色	備考
1	黒色 (10Y R ¹ / ₂)	粘性強、灰白色、明黄褐色浮石混入



第4図 S K 001~005土坑実測図

西町II遺跡

S K 004 土 壙 (第4図、図版4)

9 D 杭付近に検出された。隅丸の長方形で、長径 112 cm、短径 48 cm、深さ 8 ~ 24 cm を測る。遺物は検出されない。

S K 005 土 壙 (第4図、図版5)

8 C グリッドに検出された。円形で、径 84 cm、深さ 5 ~ 10 cm を測る。底面はわずかに凹凸がある。遺物は検出されない。

S K 006 土 壙 (第5図、図版5)

8 A グリッドに検出された。円形で、径 124 cm、深さ 7 ~ 22 cm を測る。遺物は検出されない。

S K 007 土 壙 (第5図、図版6)

13 F グリッド杭付近に検出された。径 210 cm ほどの円形で、深さは中央部で 30 cm ほどである。底面はほぼ平坦である。遺物は検出されない。

③ その他の遺構

S X 001 その他の遺構 (第3図、図版2)

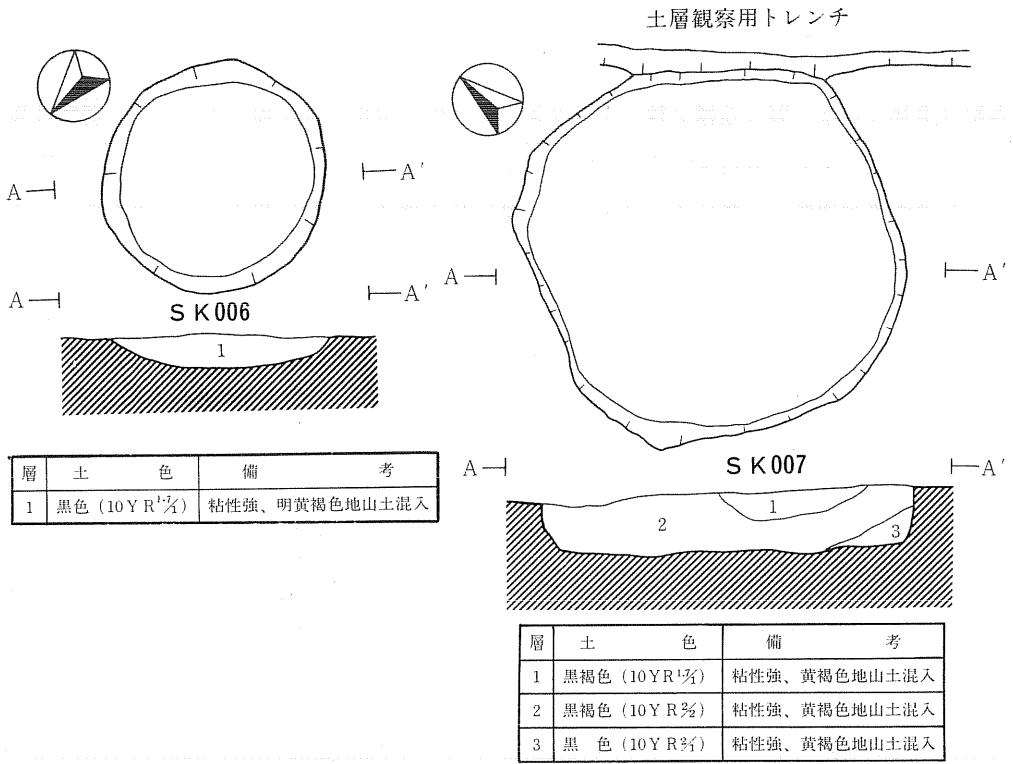
7 H・8 H グリッドに検出された。S I 002 の北東コーナー付近から北へ 6 m ほどの長さで段差が見られる。この段差は最高部で約 20 cm を測るが、北ほど次第に低くなり消滅する。S I 002 の貼床を剥ぐと、この延長部が現われ、カーブを描きながら S I 001 南側の南東コーナー付近で消滅しているらしい。段部の壁面は、住居跡のそれとは異なり、なだらかに傾斜し、細かな凹凸が見られる。豚舎による攪乱が多く、特に段部西側において著しい。

(2) 遺 物

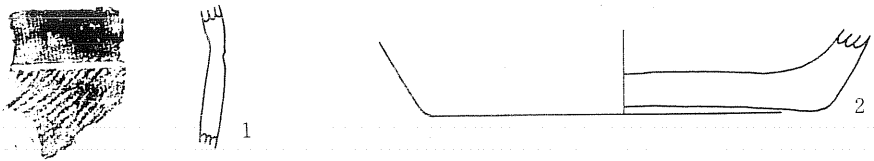
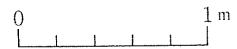
遺構内からは全く出土しなかった。表面採集で縄文土器が 2 片出土しただけである。

① 土 器 (第6図)

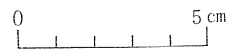
1. 磨消縄文手法の見られる小破片である。磨消部と縄文部の間は浅い沈線で画されている。縄文は L R、胎土は細かく、焼成良好、色調は灰褐色を呈している。
2. 底部の約 1/2 の破片である。胎土に砂を多く含む。焼成は良好、色調はにぶい橙色を呈する。



第5図 SK006・007土層実測図



第6図 出土遺物実測図

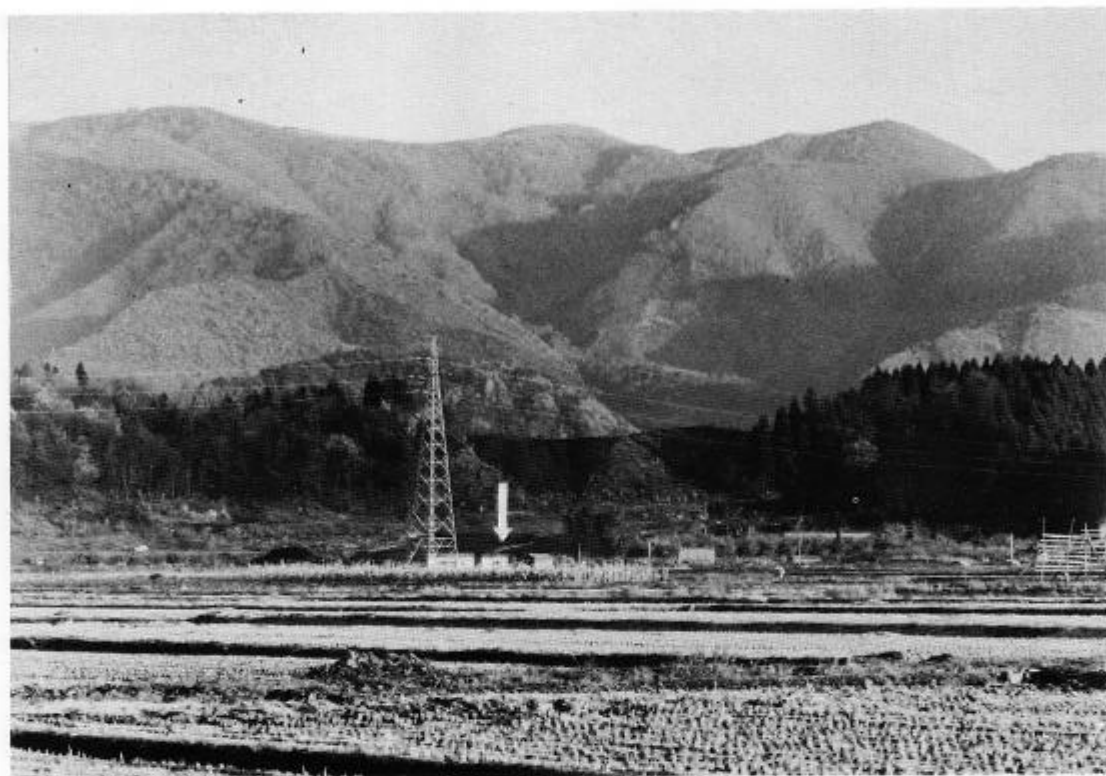


6 ま と め

西町Ⅱ遺跡からは、竪穴遺構2棟、土壇7基、その他の遺構1基が検出されたが、遺物は縄文土器片が2点のみで、各遺構の構築時期は定かでない。しかし、カマドを有しない竪穴遺構は主として中世の遺跡から検出されており、2棟の竪穴遺構も中世に属するものであろうと考えられる。

発掘調査参加者（西町Ⅱ遺跡）

浅石 清一、浅石林一郎、川又 康彦、木村 留吉、木村 善男、佐藤 由蔵、関本 芳雄、
田中 敬二、田中権四郎、奈良 一彦、奈良正次郎、畠山 市助、浅石 イソ、浅石 ヒサ、
浅石 ミヨ、浅石 ヨエ、阿部 妙子、安保 カヨ、安保ハルエ、安保ユキ子、大森 栄子、
金沢実津子、川又 スエ、川又 ソヨ、川又 千代、久慈 チヤ、児玉ハツエ、斎藤 サキ、
斎藤 久子、佐藤 トシ、佐藤フミエ、高橋 チカ、高橋 ミワ、豊田 コヨ、豊田 チキ、
苗代沢良子、根本 キワ、根本 シエ、橋場 トシ、古家カツ子、古家 一子、米田 ノリ、
宮沢 カヨ、柳沢 光子、山口チヨ子



1 遺跡遠景（西→東）



2 調査開始直後（南東→北西）



1 S I 001・002



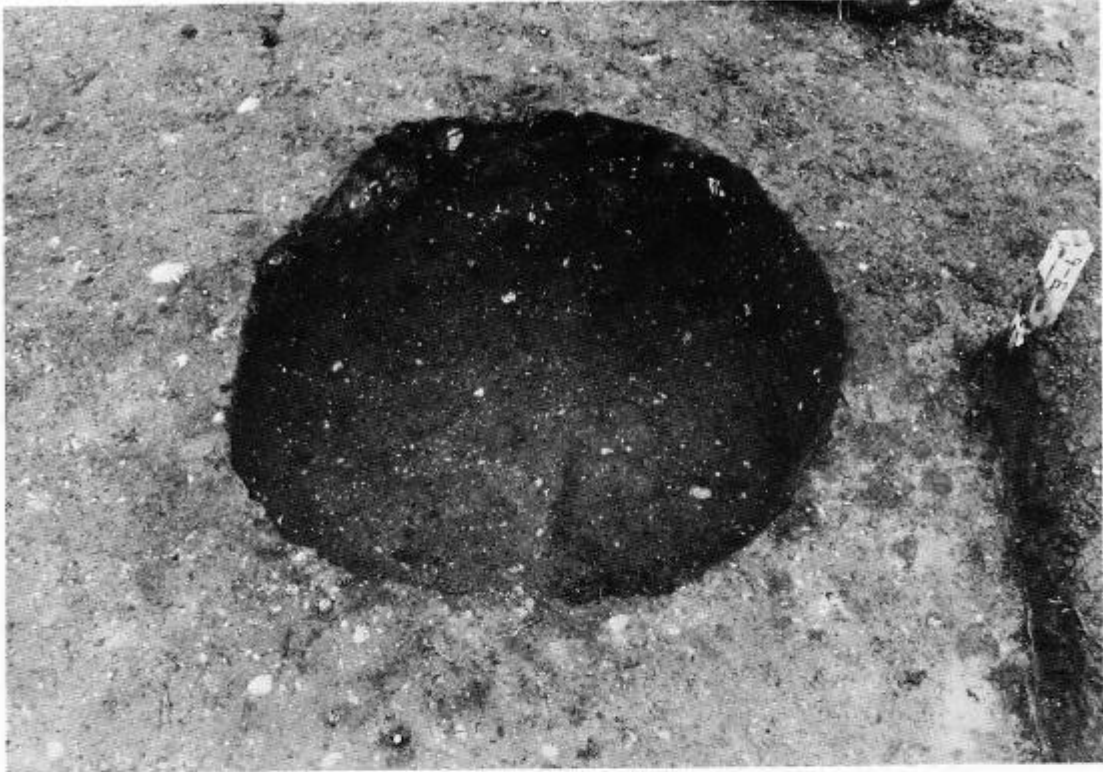
2 S I 001・002・S X 001



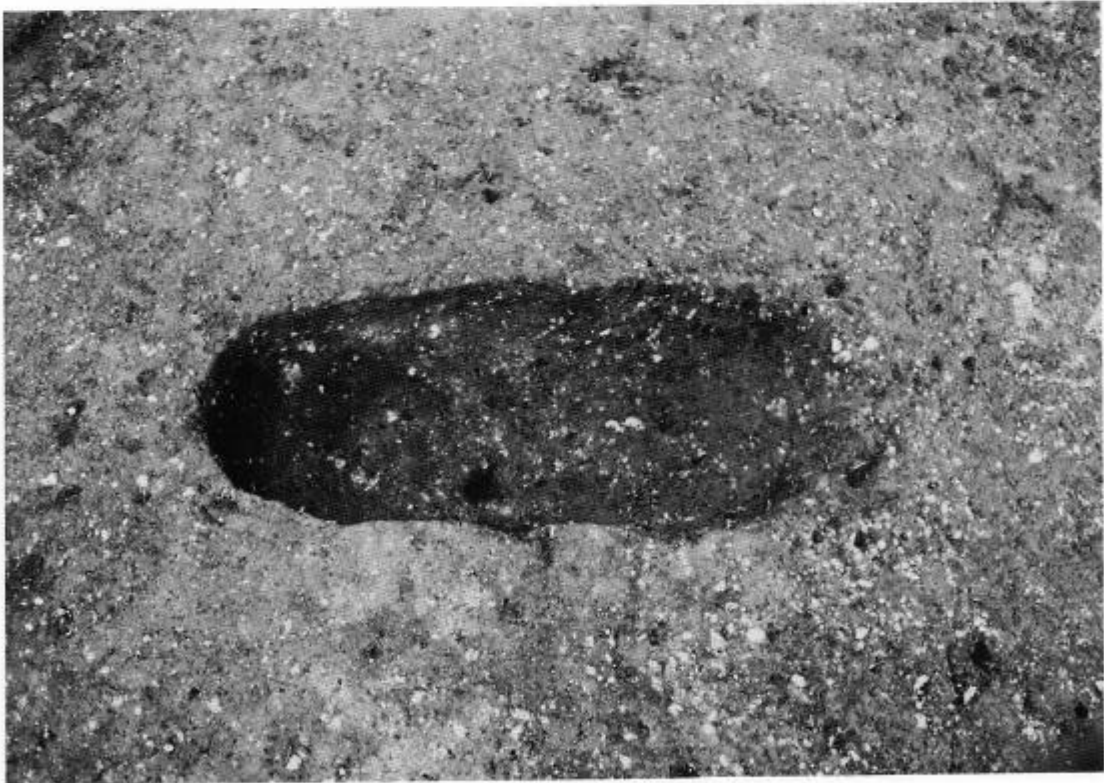
1 SK 001



2 SK 002



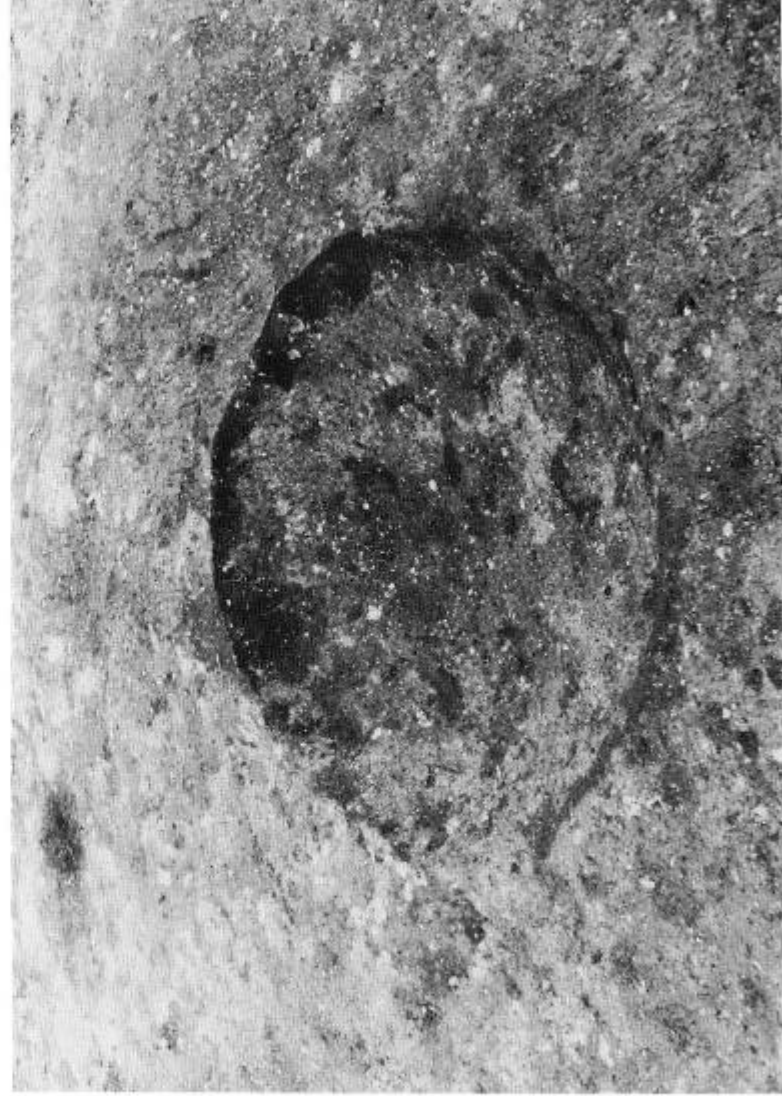
1 SK 003



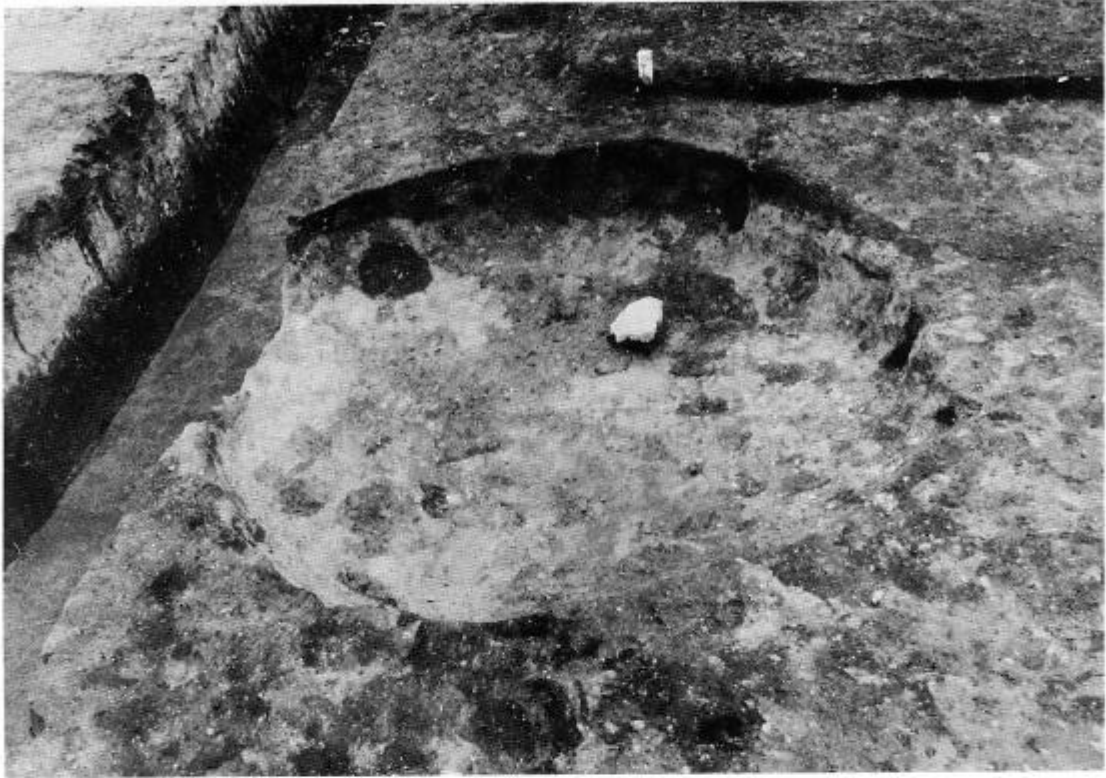
2 SK 004



1 SK 005



2 SK 006



1 SK007



2 調査終了状況